

穴生学舎かわら版

=号外=

穴生学舎
新聞編集委員会

梅

塩分の取り過ぎで敬遠されがちな梅干。六月の初めNHKで、梅肉エキスの健康への効果が紹介された。ピロリ菌を殺し、胃腸を活性化、疲労回復、抗ストレス作用、カルシウム吸収力アップ等々。まさに健康食品である。

子供の頃種を噛み割って中の白い実を天神さんと言って食べたものだ。その中にも色々な強力なパワーがあり、健康食品が出たらしい。

それも「勿体ない精神」からで、我々の健康に役立てばいい。減塩で梅漬を作り、一粒の梅と梅肉エキスを飲むのが私の日課である。

地域づくり情報 内山 雅子

地デジ化に便乗

タバコの値上がりを機に禁煙を決意した方がいましたが、私は地デジ化を機に禁TVしようと考えてます。現在も自宅ではほとんど見ていないので、そんなに辛い決断ではないのです。二十四時間ラジオ生活をしようと思います。今より自由な時間が出来、有効利用しようと思いでいます。

オリンピック、箱根駅伝は絶対見たいので、どうするか揺らいでます。とりあえずテレビは捨てます。果たして続くでしょうか。

実用書道 武田 悦子

穴生学舎新聞の文芸欄に、たくさんのご応募がありました。どの作品も素晴らしいものばかりでしたが、すべてを掲載することができず、このたびかわら版の号外として発行することになりました。研修生の皆さま、ご協力ありがとうございました。

枯れ葉も光った

それは大学祭準備のH・Rの時だった。展示と催事をやることはすでに決まっていたが内容までは決まっていなかった。過去の催事の話、今年度の他コースの動きを参考に、活発な意見や思いつき等出て未だ落ち着かない空気の中で「催事をするならこういう案もある」と出されたのが「うどんの販売」(下調べ済み)一瞬驚いてすぐには理解しにくい気持ちもあった。

自分が何をしたいのか不安が先立ってざわめいていた。「ああやバイ司会者もいない」と思った矢先建設的な意見が出た。

「催事の組織表を作って全員が動き易い様に適所に氏名を入れよう」と。

その後、多くの意見も出てパワーは凄かった。そのときやっと安心したのは私だけではなかった。

枯れ葉も光った、みんなも光った、穴生学舎には知的財産もレアアースもゴロゴロしている。まさに穴生大学だ。よたっではいられない。

国際情報 村崎 美子

最後のランナー

二〇一〇年二月七日、別大毎日マラソン記念大会写真コンテストに応募した。

選手六百五名のスタートからそれぞれの場面を転々と撮り、歩道橋を高崎山側へ降りながら、ふと右下を見てハッとした。長蛇の列、あまたの車両を従えて最後のランナーが走っている。私は飛ぶ様に橋の中央に戻り夢中で何回もシャッターを切った。それから鼓動の高まるままランナーを視界から消えるまで見つめていた。

夢中で撮った中の一枚がグランプリを射とめた。アジアを学ぶ 世良 英一



集った四十の瞳

ワンツウ・ジャンプOB第一期生の、十周年記念パーティーを二十二年一月二十五日、芦屋町の料亭で二十名が出席した。パーティーは代表幹事による会十年の歩み等の報告、穴生学舎の元先生方の暖かい祝辞や謝辞をいただいた。

続いて出席者全員による近況報告を他己紹介方式で行った。

祝宴の出し物は流石に地域のリーダーらしく多彩であった。

お開きは、プレゼント交換と記念撮影で幕。穴生学舎の校訓、出会い・触れ合い・生きがい作りが脈々と受け継がれていた。

健康管理 佐伯 喜代和

我が学舎の環境

我々が学んでいる穴生学舎は帆柱山系から洞海湾に向う段丘地に所在する地域で、今では我が国屈指の工業地帯として世界各国と貿易も盛んです。

その歴史は支那事変勃発直後、日本海軍司令部の命令で三菱化成(現在の三菱化学)に爆薬の生産命令が発令されこの地、穴生字森下に約十六万坪の用地に工場が建設された。その後重化学工業の発展に繋がった地域です。国内でも地域産業の発展スピードが最も早く発展した地です。

健康管理 梅田 三男

祖父の一喝

ベランダで洗濯物を干していると、道路にいたおじいちゃんと孫らしい二人の会話が耳に入ってきた。

「忘れ物はこれかな」「うん」小学生の孫の忘れ物を届けに来たらしい。受け取ろうとした孫へ、祖父の一喝が飛んだ。「ありがとう」「ありがとう」「ぺこりと頭を垂れた孫に、「それでよし。お礼はちゃんと言わんと」と祖父は続けた。

可愛い孫だから無形の財産、礼儀作法を教えたに違いない。近ごろ感謝の心が薄れていないだろうか、二人の会話を聞きながら思った。

歴史に学ぶ 漆村 美智子

運転免許返上す！

七十歳の誕生日を機して車の免許を返上することにした。さらば愛車「イスト」よ。

あと五年位はという思いはあったが一人暮らしにはリスクの方が大である。

昨年四月からは土、日、祝日乗り放題のバス定期券を購入。これが思いの外快適である。渋滞イライラなし、駐車心配なし。時にはバス待ち時間がある時は歩キングに変更、思わず二停留所くらいは歩く。なかなか健康的で申し分なしの快適な生活である。

歴史に学ぶ 稲田 類子

素晴らしい仲間

(平成二十二年十一月記)

退職後の一年目にあたる今年の最大のテーマは何んと言っても、四月から通い始めた「穴生学舎」での「写真入門コース」の受講である。「これまでの生き方」や「写真経験の深さ」等、何一つ分からないままに、ただ、写真を志すと言っただけで集まった仲間が、八ヶ月経った今では素晴らしい仲間になってきた。

教室での授業や野外活動と言ったコースの活動に加え、運動会や学園祭等の学舎としての活動、中でも、学園祭での催事の準備活動が連帯感を醸成しクラスを纏める大きなキッカケになった。

「北九州市 見て歩き」と言う北九州市の美しいスポットを紹介する小さな催事ではあったが、自分達で創造、立案し実行する活動を通じて、久し振りに「連帯感」を体験することができた。

数日後には「素晴らしい仲間達」と長崎への修学旅行に旅立つことになっているが、どんな楽しい旅が待っているか今から楽しみである。

写真入門 津田 勉久

